

組合員の皆様の多数のご出席のうえ意見をお聞かせください。

地区懇談会

地域	開催日時	開催会場
東部	6月11日(火) 午後1時~午後3時	広酪東部事業所会議室 ■住所: 府中市上下町上下 1507-4 ■電話: 0847-62-3060
西部	6月12日(水) 午後1時~午後3時	NOSAI広島・山県家畜診療所会議室 ■住所: 山県郡北広島町春木 461-1 ■電話: 0826-72-2128
南部	6月13日(木) 午後1時~午後3時	竹仁地域センター ■住所: 東広島市福富町下竹仁 501-11 ■電話: 082-435-2301
備北	6月14日(金) 午後1時~午後3時	広酪本所会議室 ■住所: 三次市東酒屋町 306 番地の 65 ■電話: 0824-64-2071

第19回通常総会

◆開催日時

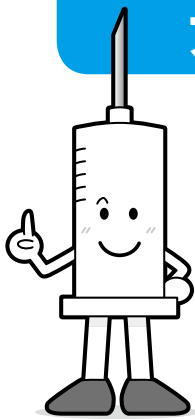
平成 25年 6月 26日(水) 午前 11時

◆開催場所

広島県三次市十日市東六丁目 13 番 25 号
三次ロイヤルホテル

一般社団法人 広島県家畜畜産物衛生指導協会からのお知らせ

乳用牛の衛生・飼養管理上の注意の呼びかけ アカバネ病等の病気発生未然防止に予防注射を!!



家畜は、健康を害する各種の要因によって病気にかかり、経営を悪化させます。その要因として、①病原体(ウイルス・リケッチャ・マイコプラズマ・細菌・真菌(カビ)・原虫・寄生虫)②有害物質(毒物・薬物等)③環境要因(暑さ・寒さ・密飼い・栄養状態等)によるストレスにより飼養環境が悪化して家畜の健康が損なわれます。また、マイコプラズマ・大腸菌等単独感染では発病しないこともありますが、何らかのストレスや混合感染等により病状が悪化することが多くみられます。

健康が損なわれますと、①死亡による損失、②発育の停滞・乳量の減少等による生産効率の低下、③畜産物の品質低下、④治療費の増加等による損害が多くなり、経営悪化が懸念されます。

したがって、予防注射を計画的に実施して、家畜に抵抗力(免疫)をつけ、未然に病気予防をすることは大変重要な方法です。

各地域・各農場により病気の発生状況は異なりますので、獣医師に相談し、的確な予防注射を実施され安定の経営を目指して下さい。

以下に、牛用ワクチン接種プログラムを紹介いたしますので参考にして下さい。

■主な牛用ワクチン接種プログラム

病状	ワクチン名		注射の方法	接種時期	注意事項
異常産・ 体型異常	異常産 3 種混合 (アカバネ、チュウザン、アイノ)	不活化ワクチン	3ml 筋肉注射	初春~初夏 (ヌカカ等吸血 昆虫発生前)	初めて接種する牛は 4 週間空けて 2 回(発情中、分娩間際、分娩 直後は避ける)
				同上	前年接種した牛は年 1 回(同上)
呼吸器病・ 異常産	イバラキ病	生ワクチン	1ml 筋肉注射	同上	年 1 回(同上)
呼吸器病・ 下痢症	5 種混合生 (牛伝染性鼻気管炎、牛パラインフル エンザ、牛RSウイルス、牛アデ ノウイルス、牛ウイルス性下痢・粘 膜病)	生ワクチン	2ml 筋肉注射	通年	育成牛(4~5 か月牛)は年 1 回(離 乳 2 週間前後は避ける) 繁殖牛及び泌乳牛:種付け 3 週間 までに接種(3 週間以内に種付け 予定、種付け直後、妊娠牛は避 ける) 肥育牛:年 1 回
同上	5 種混合不 (ポピバック 5、ストックガード 5) (牛伝染性鼻気管炎、牛パラインフル エンザ、牛RSウイルス、牛アデ ノウイルス、牛ウイルス性下痢・粘 膜病)	不活化ワクチン	2ml 筋肉注射	通年	初産牛:分娩予定日の 1.5 月と 0.5 月前 経産牛:分娩予定日の 0.5 月前 肥育牛:半年~年 1 回
同上	キャトルウイン 6 (牛伝染性鼻気管炎、牛パラインフル エンザ、牛RSウイルス、牛アデ ノウイルス、牛ウイルス性下痢・粘 膜病 2 株)	生・不混合ワクチン	2ml 皮下注射	通年	肥育牛:半年~年 1 回
伝染性血栓 性髄膜炎	牛ヘモフィルス・ ソムナス感染症	不活化ワクチン	2ml 筋肉注射	通年	子牛市場出荷牛は出荷前 1 回、 3~4 週間後 2 回目接種